広報

中部の森林（もり）

写真：夏を待つ奥穂高岳（中部森林管理局職員撮影）

私の森語り「山と街をつなぐ」
岸田木材株式会社　専務取締役　岸田 真志

各地からの便り

・クリーン活動、鳥獣保護等講習会　ほか

シリーズ

・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

国民の森林・国有林

林野庁中部森林管理局

2024/No.244

今年も国有林クリーン活動実施

【飛騨森林管理署】

五月三十日、今年も高山市清見町を通る県道九〇号線（愛称：飛騨卯の花街道）沿いの彦谷国有林の林道、国道一五八号線沿いに隣接する上小鳥国有林の二か所においてクリーン活動（ゴミ拾い）を実施しました。

当日は天候にも恵まれ、少し汗ばむくらい陽気のなか、当署の職員に加え、名古屋林業土木協会及び名古屋造林素材生産事業協会の会員など四十六名が参加し、ゴミの収集作業に汗を流しました。

彦谷国有林内の林道に隣接する県道九〇号線は、東海北陸道飛騨清見インターから飛騨市へ抜けるバイパスとなっており、山間地にもかかわらず交通量が多く、この付近が休憩ポイントとなっているせいか、空き缶やペットボトル、お菓子の包装紙などのポイ捨てゴミがいたるところに落ちていましたが皆で協力して収集しました。

上小鳥国有林に接する国道一五八号線は、高山市街地から白川郷や郡上市へ至る主要道のため交通量が多い場所です。こちらもポイ捨てゴミが多いのではないかと思われましたが、待避所付近には物干しピンチや衣類用洗剤容器など明らかに家庭から出るようなゴミが捨てられていました。

両箇所とも見通しのよい道路沿いのため、速度を出して通過する車両が多い中での作業でしたが、怪我等もなく作業を終えることができました。

県道沿いの国有林（林道）で活動する様子

収集したゴミは職員により分別したあと、市内の資源リサイクルセンターに運び込みました。計測されたゴミの量は約五〇kgで昨年度と同程度でしたが、粗大ごみが含まれていた昨年度と違い、一般ゴミ主体でこれだけの量となったのは、捨てられたゴミが減っていないことを物語っている結果ともいえます。対症療法としてのゴミ拾いだけでなく、マナー向上等の対策を関係機関と連携しながら、検討していく必要があります。

収集されたゴミの一部

新型コロナウイルス感染症収束後、古い街並みや白川郷などを目指して、飛騨地域においても訪日外国人を含めた観光客が増えています。観光地だけでなく、そこへ至るまでの車窓からもゴミのない美しい景観を楽しめるよう、今後も継続して実施していきます。

活動終了後の集合写真

定光寺(じょうこうじ)530運動の実施

【愛知森林管理事務所】

五月三十日のゴミゼロの日に併せ、愛知県瀬戸(せと)市にある瀬戸国有林内の定光寺自然休養林森林交流館周辺道路にて、ゴミゼロ運動を実施しました。

ゴミ拾いは、当所職員十五名のほか、瀬戸市や関係する事業体等の職員を含め総勢四十二名が参加しました。

作業開始前に所長から、「一生懸命ゴミ拾いをしようとしても、紙屑一つ拾集できないようになることが理想です。我々が多くのゴミを拾集できることは、良いことではなく、ゴミを捨てても片付けてもらえると思われないように働きかけていくことが運動の趣旨です。そう願いつつ頑張りましょう。」との挨拶があり、午前中の１時間半程の作業に汗を流しました。

以前に比べると拾集したゴミの量は少なめでしたが、それでもおよそトラック二台分になりました。空き缶やペットボトルはもとより、タイヤ、バンパー、家具、塗料缶などの街中で収集されにくいものが含まれており、このようなゴミが都市近郊に位置している国有林に不法投棄される傾向に変わりはありませんでした。

午後からは、名古屋造林素材生産事業協会愛知支部及び名古屋林業土木協会愛知支部傘下の会員によるボランティア活動の一環として、森林交流館周辺の草刈り作業を実施していただきゴミゼロの日を終えました。

作業開始前の集合写真

「ごみゼロの日」に金華山(きんかざん)の清掃活動を実施

【岐阜森林管理署】

五月三十日、金華山国有林において、「国有林ゴミゼロ運動」として金華山ドライブウェイ周辺の清掃活動を行いました。

当日は好天に恵まれ、岐阜市をはじめ地域のボランティア団体や森林・林業関係団体など、総勢六十一名が四班に分かれ、金華山ドライブウェイの入口から展望台、岩戸公園までの約五キロメートルを歩きながら空き缶、ペットボトルなどのゴミを拾い、約一時間半で軽トラック約二台分のゴミが集まりました。

金華山国有林は、岐阜城がそびえ、ツブラジイやアラカシなどの照葉樹林に覆われた豊かな自然景観を呈しており、「金華山自然観察教育林」（レクリエーションの森）として、ロープウェイや遊歩道などが整備され、多くの市民や観光客に親しまれています。

金華山を訪れる人たちが気持ちよくハイキングや自然観察等を楽しんでいただけるよう本活動を継続しながら、ごみの持ち帰りをはじめとする自然環境保全について、啓発活動を行っていきます。

集めたごみの回収

作業開始前に参加者全員集合（後方は岐阜市街）

木曽青峰高校 赤沢自然休養林で地域学習

【木曽森林ふれあい推進センター】

五月二十四日、長野県上松町の赤沢自然休養林において、木曽青峰高校の一年生八十五名が、地域学習の一環として三年ぶりに遊歩道の整備と「学術研究コース」の見学を行いました。

　遊歩道の整備は、木曽ヒノキの根が網状に延びる様子が観察できる向山コースで行いました。ヒノキの根は浅く横に這う性質があるため「走り根」と呼ばれています。表土が流れて露出してしまった歩道上の走り根を保護するために、ヒノキの間伐材等を細かく砕いたチップ材を撒く作業を行いました。生徒たちは協力しながらスコップで手提げ袋にチップを詰め、遊歩道を何度も往復して作業に汗を流しました。

　「学術研究コース」は、普段一般の方が立ち入ることができない区域内にあるため、当センターと木曽森林管理署職員の案内で林内を進みました。樹齢約三百年以上の木曽ヒノキなどが立ち並ぶコースを巡りながら、赤沢自然休養林を含む世界的にも貴重な温帯性針葉樹林の「木曽悠久の森」の成り立ちなど地域の自然環境について学び、森林の空気を十分浴びて本学習会を終えました。

　今年の赤沢自然休養林の開園は、十一月七日までの予定です。森林浴発祥の地である当園で、心身ともにリフレッシュされてはいかがですか。

チップ撒きをする生徒たち

「国民の森」の見学会を実施

【木曽森林管理署】

六月一日、御岳国有林（長野県王滝村）にて、王滝村公民館主催による、「国民の森」の見学会が実施されました。

　「国民の森」は、昭和五十九年の長野県西部地震に伴う大崩壊「御岳崩れ」により発生した大量の土石流が濁川を埋め尽くした跡地に、中日新聞社やボランティアの協力により造成された森林です。

　本見学会は、地震による犠牲者の追悼の場であり、災害について学び伝えていく地域活動の拠点となっている柳ヶ瀬鎮め観音の清掃活動と併せて行われました。

柳ヶ瀬鎮め観音の清掃活動

　王滝村の住民約二十名で清掃活動の後、「国民の森」、「御岳崩れ」の跡地、濁川における復旧治山工事現場を一望できる幕岩展望台に移動し、当署職員が土石流による森林被害の大きさ、「国民の森」の造成、復旧治山工事などについて説明しました。

　今年は、長野県西部地震の発生から四十年を迎えました。見学会を通じて、地元の方々に本災害による被害状況やその後の経過、取組について知っていただくよい機会になりました。

幕岩展望台での当署職員による説明

「八ヶ岳（やつがたけ）開山祭」七十周年の節目

【南信（なんしん）森林管理署】

六月二日、八ヶ岳連峰の夏山シーズン到来を告げる恒例の開山祭が行われ、雨天の下、登山者や山小屋関係者等が、南八ヶ岳会場（行者小屋）に約七十名、北八ヶ岳会場（北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅）に約五十名集まり、今年の登山の安全を祈願しました。

南八ヶ岳会場では、午前中は薄日が差すときもありましたが、開山祭開催時刻が近づくにつれ、次第に雨足が強くなり気温も下がってきたため、登山者へも配慮し、開催時刻を早めるなどの調整が行われました。

行者小屋から望む赤岳

来賓として出席した当署署長からは、開山祭開催に対する祝辞とともに、当署が取り組んでいるシカ被害対策や、高山植生の復元、森林パトロールによる清掃活動などにおいて、地元自治体、登山者、ボランティアに協力いただいていることへの謝意を述べました。

最後に、遭難事故者への追悼のことば、献花、黙祷が捧げられた後、雪山讃歌の合唱が行われ、無事終了となりました。八ヶ岳一帯は国定公園に指定されており、首都圏からのアクセスも良好で、老若男女問わず楽しめる多様な登山ルートがあることから、例年多くの登山者が訪れます。新型コロナウイルス感染症の分類が見直され、今後はより多くの利用が見込まれる一方、遭難事故の増加も懸念されます。

当署としては、山小屋関係者や地域の観光関係者の方々と連携し、高山植物保護のためのロープや指導標の設置など、山岳遭難のリスクを低減させる取組を推進していくとともに、八ヶ岳の豊かな自然環境の保全に引き続き取り組んでまいります。

八ヶ岳連峰は貴重な森林生態系が維持されている地域であり、国有林に隣接する山梨県有林及び長野県内の民有林との間で協力して保全に努めることにより、野生動植物の移動経路の確保などを進める「緑の回廊」となっています。

開山祭に参加した登山者や関係者の方々

木工クラフトイベントで木材の良さをアピール

【資源活用課・技術普及課・北信森林管理署】

六月八日、長野市役所西側広場（桜スクエア）において、木材の良さを体験してもらう「桜スクエア森林フェア」が開催され、中部森林管理局では、木材や木の実を用いたクラフト体験ができるブースを出店しました。

このイベントは、日本木材青壮年団体連合会全国大会の開催に併せて実施され、長野県や長野森林組合など関連する複数の機関・団体が参加しました。森林管理局・署の丸太切りと木工クラフト体験のブースへは、二〇〇名以上の親子が訪れ大盛況でした。丸太切りでは、管内の国有林で伐採されたヒノキやミズメ、カンバ等を用意し、子どもたちはノコギリを用いて、苦労しながら好みの長さに切っていました。切った後には樹種ごとの色や香りの違いに驚く様子も見られました。木工クラフトでは、枝や輪切りの木、松ぼっくり、どんぐりなどを組み合わせ、置物、ネームプレートなど様々な作品を作り上げました。材料の選び方や配置など、子どもたちのアイディアに驚かされる場面も多くありました。製作中にマツの種子や樹種の違いを説明すると、親子の間で「知らなかったね」「すごいね」という会話も聞かれ、木材や木の実に興味を持ってもらえたのではないかと思います。

今後も各種イベント等を通じ、森の恵みや木の温もりを伝え、木材利用につなげていく活動に取り組んでまいります。

木工クラフト体験で賑わうブース内

実践を交えた「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催

【愛知森林管理事務所】

六月十九日、有害鳥獣捕獲及び狩猟に関する講習会を開催し、職員十六名が参加しました。

当所管内の段戸（だんど）国有林（設楽（したら）町）ではニホンジカによる植栽木の被害が発生しており、防護柵設置やくくりわなによる捕獲に取り組んでいますが、生息数の増加による被害区域の拡大等が想定されるため、初心者でも簡単に効率よく捕獲できる「小林式誘引捕獲法」の設置方法や効果を職員が実際に体験し、その普及等に役立てようとするものです。

午前中は、愛知県東三河（ひがしみかわ）総局から講師を迎え、鳥獣保護管理の概要や有害鳥獣の特性、続いて当所担当職員から捕獲における安全対策の指導を受けた後、意見交換を行いました。

午後は、段戸国有林で、捕獲経験者が指導役となって、わな設置の現地実習を行いました。その際、会場近くに設置しておいたわなにシカが捕獲されていたため、当初の予定にはなかった止め刺し（殺処分）の実演を行うなどして、緊張感漂う実践的な講習会となりました。

シカ被害を減少させるため、当所では、今後も自治体や関係者との連携を進め、要請があればいつでも捕獲の現地検討会や説明会の開催などに協力してまいります。

わな設置の実技講習の様子

「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催

【岐阜森林管理署】

六月五日、下呂(げろ)市農村活性化施設「きこりセンター」において、「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催しました。

当署管内では、ニホンジカの生息域は拡大傾向にあり、森林被害対策を着実に進めることが必要となっており、くくりわなの貸出、委託事業による捕獲などを行っています。

本講習会は、鳥獣保護や狩猟に関する知識と技術の向上を図ることを目的として毎年行っており、当署のほか、飛騨署、東濃署、森林・技術支援センター、更には関係市町村の担当職員も参加し、総勢四十七名が受講しました。森林管理署等に勤務する職員は、本講習を受けることにより、国有林内に限り、わなによる有害鳥獣の捕獲が可能になります。

午前の部では、岐阜県の鳥獣保護行政の担当職員から関連法令をはじめ、県内に生息するシカの個体数・分布域の推移や被害の現状に関する講義を受けました。午後の部は、わなによる捕獲に精通し猟友会の会員でもある当署職員が、わなの種類と特徴、設置・捕獲時の留意事項等について、実演を交えながら講習を行い、参加者は興味深く耳を傾けていました。

法令等についての講義

くくりわな設置の実技講習は室内で行いましたが、土や枝葉などを使用して現場に近い状態に再現して設置し、シカの足に見立てた棒を使用して、受講者はわなの作動を体験しました。

今回の講習会で得られた知見・ノウハウを活かしながら、引き続き、自治体や関係機関などと連携したシカ被害対策を進めてまいります。

くくりわなの設置体験

〈中部森林管理局のシカ被害対策は「攻め」と「守り」の2本立て〉

〈攻めの対策〉

シカ捕獲にあたり、事業者への委託や猟友会等へのわな貸出しなど地域ぐるみの取組や、高い捕獲効率が期待できる「小林式誘引捕獲法」の普及に努めるほか、わな設置後の見回り負担を軽減できる「捕獲通知システム」の導入に取り組んでいます。

〈守りの対策〉

シカによる苗木の食害が懸念される地域では、新植地の周囲への防護柵設置や忌避剤散布を実施しています。このほか、希少な高山植物等を保護する観点から、状況に応じて防護柵を設置しています。

林地保全に配慮した作業道の現地検討会

【飛騨森林管理署】

六月十三日に、岐阜県高山市の民有林に作設されている屋根型作業道(欧州型)の現地検討会を実施し、飛騨森林管理署・岐阜森林管理署・森林技術・支援センター職員十四名が参加しました。

林野庁では、林業の様々な課題を抜本的に改善していくため、新技術を活用して、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を展開することとしています。国有林においても積極的に取り組むため、今回の検討会を企画しました。

この屋根型作業道は、欧州での事例を参考に林業専用道規格で作設された安価で丈夫な作業道であり、あわせて、林地保全や生態系に配慮した構造となっているため、持続可能な森林経営につながると考えられています。この技術については、高山市の(株)長瀬土建から、昨年度中部森林管理局で実施した森林土木分野における工事等の省力化・効率化を目的とした「新技術・新工法」技術プレゼンテーションでも紹介されています。

屋根型作業道の説明を聞く参加者

同社の長瀬社長から、「作業道が壊れる原因のほとんどは水であり、水をいかに制御・処理するかがポイントになること、屋根型作業道は水を大量に集めず、流れるスピードを落とす構造となり、降雨の際は、雨水が路面の横方向に流れ、路面縦方向の浸食抑制効果がある」といった説明を受けました。現地の作業道は、九年の間、側溝の土砂を除いたり、枝や石を拾う以外のメンテナンスは行われていませんでしたが、路盤はほとんど洗掘されていない状況でした。

作設済みの屋根型作業道の現状を説明

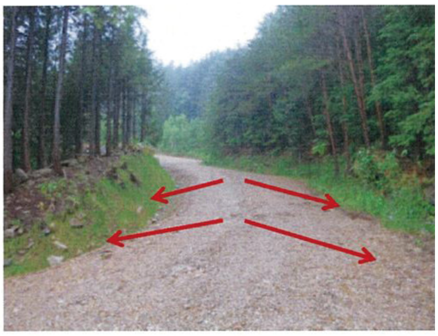
検討会に参加した各署の担当者からは、屋根型作業道の路盤の構造や排水方法、施工の方法やコストなどに多くの質問があり、また、国有林内の林道との違いを確認していました。

今回の検討会を踏まえ、林地保全に配慮した路網整備の推進、事業体への技術指導につなげるとともに、今後も様々な課題解決や新しい林業を推進するため、知識や技術の習得に取り組んでまいります。

従来の構造の作業道

路盤を流れた水は排水溝で排水

屋根型構造の作業道



屋根型構造で両側に排水

作業道の排水比較状況

「新技術・新工法」技術プレゼンテーションはこちらから　↓